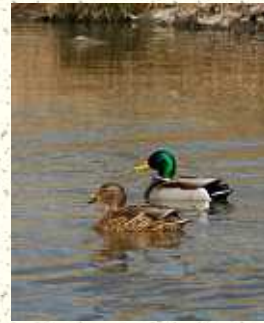


もし新型インフルエンザが流行ったら

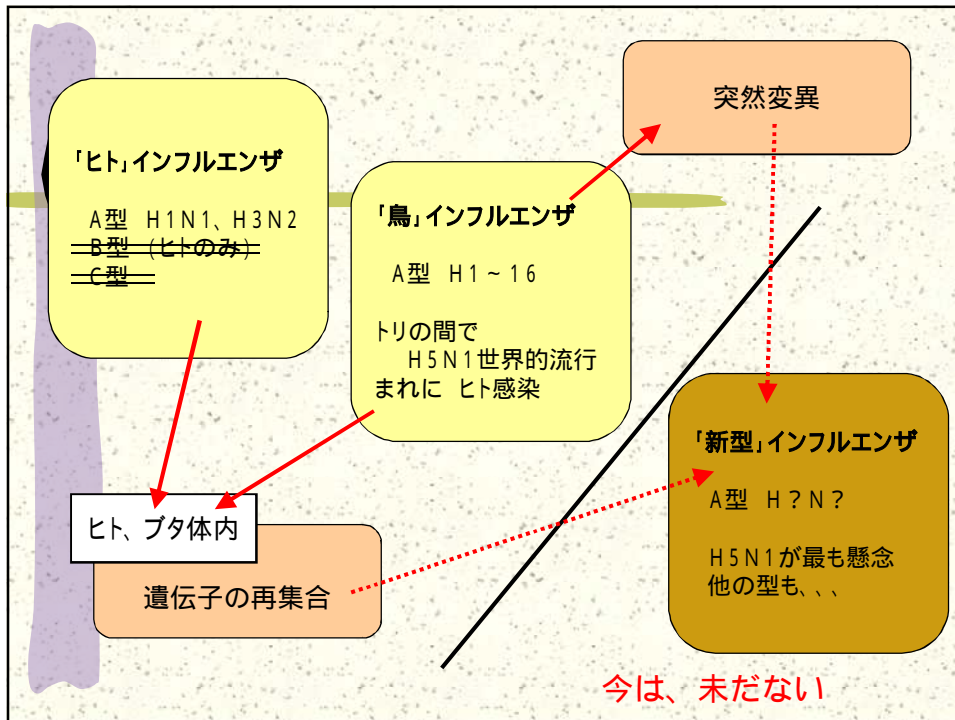
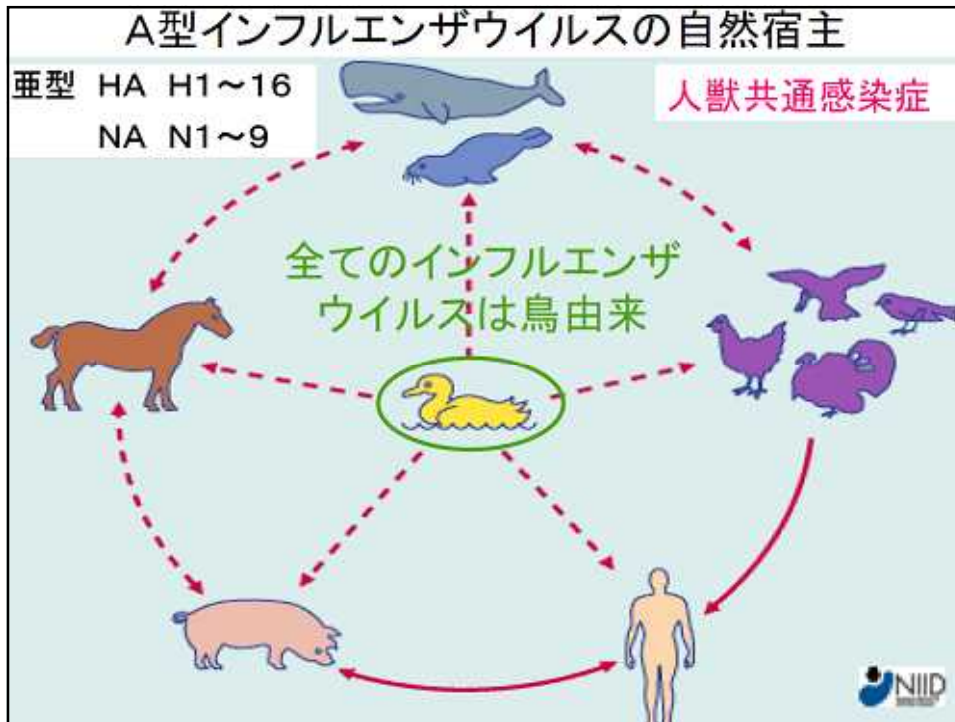
～ 私たちが・・・今からすること～

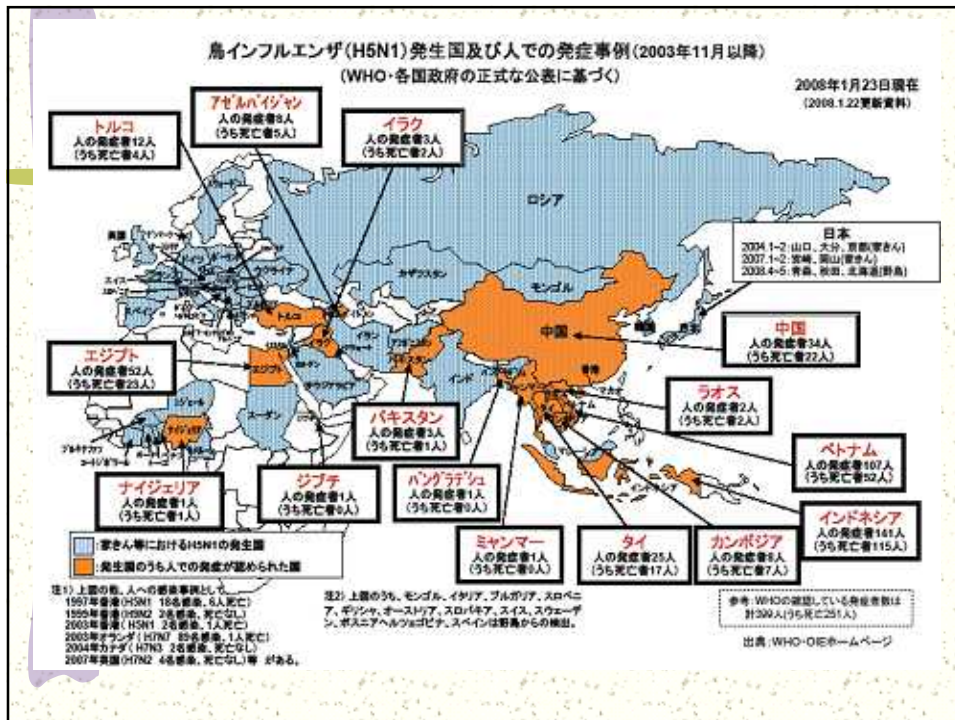
京都府山城北保健所
感染症・難病担当



世界的流行を起こしたインフルエンザ ～ 発生直後は全て新型～

	1918	1957	1968	1977	??
H1N1	スペインかぜ			ソ連かぜ	
H2N2		アジアかぜ			
H3N2			香港かぜ		
H5N1?					新型





世界的にみると、

新型インフルエンザがもし流行したら？

	1918年	2005年
地球人口	約20億人	約64億人
交通手段	鉄道、船	航空機など
伝播速度	約7か月	4～7日
死亡数	約4,000万人	約6,000万人? (*)

オーストラリアは国境封鎖をした



スペインかぜの時は . . .



新型インフルエンザの脅威

- ・パンデミックの脅威
 - 免疫の欠如
 - 高い致死率(若年層)
 - 想像を絶する健康被害
 - 社会活動、社会機能への影響
 - パニック
- ・医療問題ではなく、危機管理



(参考) 改定前の行動計画におけるフェーズ分類と発生段階との対応表

【改定前】フェーズ分類	【現行】発生段階
フェーズ1、2A、2B、3A、3B	【前段階】未発生期
フェーズ4A、5A、6A	【第一段階】海外発生期
フェーズ4B	【第二段階】国内発生早期
フェーズ5B、6B	【第三段階】感染拡大期、まん延期、回復期
後パンデミック期	【第四段階】小康期

※「A」国内非発生 「B」国内発生

パンデミックの規模と患者数等の推計

新型インフルエンザ対策行動計画においては、被害の状況について次のように見込んでいる。

- 医療機関を受診する患者数：最大2,500万人
- 入院患者数：53～200万人
- 死亡者数：17～64万人
- 年齢 若年層(しかし予測困難)
- 20-40% 最大40%程度の欠勤率
- 欠勤日数 10日 家庭事情による
- 準備期間 海外発生から2～4週間(想定)
- 流行の波 8週間程度(行動計画)
 - ・ 政府の介入により変動あり
 - ・ 地域により、流行のピークの大きさ時期に差あり

日本国内での患者数試算

日本国内（人口：12700万人）で**最悪の場合**

✦ 医療機関受診者数	2500万人
✦ 総入院患者数	200万人
✦ 1日当たり最大入院患者数（流行から5週目）	10万1000人
✦ 死亡者数	64万人

つまり

4人に1人が 感染し
5人に1人が 医療機関を受診し
60人に1人が 入院することになり
200人に1人が お亡くなりになる

という試算

山城管内での患者数試算

✦ 山城管内（人口：557,000人）で最悪の場合

✦ 感染者数	139,250人
✦ 医療機関受診者数	114,400人
✦ 総入院患者数	9,284人
✦ 1日当たり最大入院患者数（流行から5週目）	4,420人
✦ 死亡者数	2,785人

危機管理として考慮すべきこと

1 影響は世界的な規模

流行は特定されない、どこからも助けがこない
人や物資の移動が制限

2 物損はないが、人的被害が大きい

物が運べない、輸出入ストップ、職員等の欠勤率が高くなる

3 被害が長期化

第1波だけでなく2波3波の大流行もある(18月～24月)

4 国内流行期に関する事前予測

東南アジアから到着するまでの準備時間は短い

5 高い欠勤率に対する考え方

他の要員は？業務形態は？業務の縮小・中断の時期

社会機能のパンデミック期の状況（想定）

医療サービス	・患者が増加、病床や医薬品が不足 ・医療従事者の感染による医療サービスの低下 ・他の診療科目が限定される可能性
集客施設	・百貨店、劇場、映画館等集客施設の営業自粛
公共交通機関	・利用者の減少 ・従業員の欠勤により運行本数の減少
学校	・全ての学校が休校
物資	・食料品、生活必需品などの物資が不足
公共サービス	・電気、水道、ガスのサービス低下(窓口業務の中断等) ・従業員不足により、地域的に対応に時間がかかる可能性
通信	・外出自粛や在宅勤務による電話・ITの需要増大で通信速度の低下
金融	・窓口業務中断の可能性 ・ATMへの現金の滞りの可能性
行政サービス	・窓口業務中断の可能性

厚生労働省「新型インフルエンザ発生時の社会経済状況の想定(一つの例)」から

最悪の事態に備えて十分な準備を！

- ※ 大流行以前に準備計画と行動計画を立てる
- ※ 計画を実施しておくこと
- ※ 皆様への情報提供・共有、理解と同意を得る



個人レベル
家庭レベル
地域レベル

スペイン風邪の時は食料に困った

での計画・準備・実施も必要

リスク・コミュニケーション (社会的合意形成)

正しい知識の普及、推奨する感染予防策の周知

- 広報車
- 宣伝ビラ・ポスター作成
- Q & Aの作成
- 相談窓口
 - フェーズ4 (人から人に感染) :
 - 休日を含め24時間相談窓口を設置
- ホームページ
- K B S 近畿放送、NHK 京都に協力依頼
- 管内外国人への、外国語による情報伝達方法の確保



風評によるパニック防止対策 (風評状況の監視)。

パンデミック時の弱者支援

在宅療養者 (児童・高齢者・障害者等) への生活支援

- 在宅者の見回り
- 往診、訪問看護
- 食事提供等
- 医療機関への移送
- 自宅死亡者への対応等



について検討を行う



安全マップの作成

こうして防ごう！

※ 新型インフルエンザは、
※ 誰も免疫ない

交通機関の発達や、日常生活圏広域化でインフルエンザウイルスが拡がりやすい

今の段階では、ワクチンが間にあわない

※ 外出時のマスク	うがい・手洗い
※ 衣服の調整	室温20度 湿度60%
※ バランスのよい食事	適度な運動
※ しっかり休養	人混みを避ける
人との距離を保つ	(できるだけ)

抵抗力をUP！



“咳エチケット”を守りましょう！

- 咳やくしゃみが出る時
- 咳やくしゃみが出そうになった時

まず、ティッシュで
口と鼻を被いましょう。
(使用したティッシュはゴミ箱に捨てましょう。)
人ごみではできるだけマスクも
つけましょう。



その後は、よく手を
洗いましょう。
手洗い場が近くでない時は、
ウェットティッシュも
代用できます。

風邪・インフルエンザなどを防ごう

- 咳やくしゃみが出る場合はどうもティッシュなどをお使いください。
- 咳が強い場合はマスクをおつけください。
- 医師や看護師もマスクをつけさせていただく場合がございます。